

内発協の製品認証部まとめ

令和元年度

防災用、常用防災兼用 自家発電装置の設置実績

内発協の製品認証部はこのほど、令和元年度（2019年4月～2020年3月）の防災用自家発電装置、常用防災兼用発電装置の適合マーク使用報告（設置実績）をまとめ、公表しました。製品認証部のまとめによると、防災用は、設置台数は7,005台、前年度に比べ6.6%増加しました。設置容量は1,075,287.9kW、同8.5%増加しました。兼用機は、設置台数は14台（前年度18台）と減少した一方、設置容量は14,380.0kW（前年度12,845.0kW）と増加しました。〈常用防災兼用発電装置：兼用機〉
【問合せ先】 製品認証部（☎03-5439-4391）河野

防災用、ヤンマー E S が首位

メーカー別

令和元年度の防災用自家発電装置の設置台数をメーカー別にみると、設置台数が最も多かったのは、ヤンマーエネルギーシステム(株)で2,976台。2位はニシハツ(株)で1,250台、3位は(株)東京電機で1,190台、4位はデンヨー(株)で356台、5位は三菱電機(株)で335台の順でした。

設置容量では、1位はヤンマーエネルギーシステム(株)280,901.4kW、2位は川崎重工業(株)145,310.0kW、3位はニシハツ(株)107,987.1kW、4位は(株)東京電機106,958.7kW、5位はヤンマーパワーテクノロジー(株)（旧ヤンマー(株)）80,660.0kWの順でした。

設置台数の上位メーカーのうち、前年度に比べ増減率が大きかったのは、デンヨー(株)で23.6%増、ヤンマーエネルギーシステム(株)で15.8%増。一方、三菱電機(株)は16.0%減でした。

一方、原動機の種類別では、設置台数7,005台のうち、ディーゼル機関は全体の96.6%の割合で、ガスタービン機は全体の3.3%、ガス機関は全体の0.1%の割合でした。前年度に引き続き、令和元年度の防災用ガス機関の設置台数は、8台（設置容量は計230kW）でした。

施設種別

施設種別にみると、設置台数の1位は、「**その他事業場※**」で3,142台、2位は福祉施設等で937台、3位は百貨店・店舗で539台、4位は旅館・ホテルで448台、5位は工場・作業場で407台の順でした。

設置容量では、1位は**その他事業場**656,852.0kW、2位は病院等60,820.3kW、3位は**工場・作業場**60,680.6kW、4位は福祉施設等54,999.1kW、5位は百貨店・店舗46,627.1kWの順でした。

設置台数が多い施設のうち、前年度に比べ、大幅に増加したのは、福祉施設等で20.6%増でした。

※ **その他事業場**：代表的な施設としては、一般のビル、ポンプ場及び浄水場等、水道施設、消防署等、官庁舎、銀行、ダム等が上げられます。

施設種別

都道府県別にみると、設置台数が最も多かったのは、東京都で832台、2位は北海道で429台、3位は大阪府で394台、4位は神奈川県で313台、5位は愛知県で311台の順でした。

設置容量を多い順にみると、1位は東京都で279,013.7kW、2位は神奈川県で61,625.7kW、3位は北海道で59,727.4kW、4位は大阪府で54,887.0kW、5位は千葉県で54,730.2kWの順でした。

設置台数の上位の都道府県のうち、前年度に比べ、大幅に増加したのは、北海道で49.5%増でした。逆に、前年度に比べ、大幅に減少したのは、大阪府で13.4%減でした。

兼用機はヤンマーP T、 J F E エンジ、ダイハツ

メーカー別

令和元年度の兼用機の設置台数は、ヤンマーパワーテクノロジー(株)7台(計4,380kW)、JFEエンジニアリング(株)5台(計7,000kW)、ダイハツディーゼル2台(計3,000kW)。3社で合計14台(計14,380kW)の設置実績が報告されています。

一方、原動機の種別では、設置台数14台のうち、ディーゼル機関は9台(計7,380kW)、ガス機関は5台(計7,000kW)でした。

施設種別

施設種別にみると、兼用機の設置台数は、工場・作業場8台、その他事業場5台、神社・仏閣1台の順でした。

設置容量では、工場・作業場9,800.0kW、その他事業場3,900.0kW、神社・仏閣680.0kWの順でした。

都道府県別

都道府県別にみると、兼用機の設置台数は、福島県で5台、東京都で3台、宮崎県で2台、千葉、岐阜、広島、愛媛4県で各1台の順でした。

設置容量では、福島県で7,000kW、宮崎県で2,400kW、千葉、広島各県で1,500kW、東京都で900kWなどでした。